

進路指導室から 第276号

はじめに

新型コロナウイルス感染症に対して、日夜関係業務を通して人々の命や健康を支えている医療従事者の皆さんには本当に頭が下がる思いです。一方、この事態に対して自分は何ができるだろうかと考えてしまいます。

さて、南アメリカの原住民の間に以下のような物語が伝わっています。

恐ろしい山火事がありました。
森の動物たちは、みんな必死に逃げましたが、一羽のハチドリが一生懸命、
細いクチバシを使って川から水を運び、一滴一滴を燃え盛る火に落としていました。
逃げてきたクマがそれを見て立ち止まりました。
「おまえは、いったい何をしているんだ！」
ハチドリは、答えました。
「できることをやっているのさ！」

この物語は、「ハチドリのひとしずく」といいます。4月3日（金）に亡くなられた環境保護活動家のC. W.ニコル氏の公式ホームページにも紹介されています。自分の持ち場で最善を尽くすよう努めることしかできません。

「総合型選抜（旧AO入試）と学校推薦型選抜（旧推薦入試）」について

萩生田文部科学大臣は、4月17日（金）の記者会見で、新型コロナウイルス感染拡大で休校が続いていることに関連し、大学受験生への対応策を検討していると明らかにしました。秋から始まる各大学の総合型選抜（旧AO入試）や学校推薦型選抜（旧推薦入試）について、「募集時期を遅らせるべきだ」との考えを表明しました。募集時期が遅れることになれば、選抜、そして、合否発表の日程が遅れ、一般入試に少なからず影響を与える可能性があります。今後の動向には留意する必要があります。

〔参考：総合型選抜（旧AO入試）と学校推薦型選抜（旧推薦入試）〕

	総合型選抜（旧AO入試）	学校推薦型選抜（旧推薦入試）
出願	9月以降	11月
合否発表	11月以降、3月末まで	12月以降、一般選抜期日の10日前まで
募集定員	制限なし	学部等の募集定員5割未満

「THE世界大学ランキング日本版2020」について

イギリスの教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」（THE）は、国内の公立私立大学の「教育力」を測って順位づけする「THE世界大学ランキング日本版2020」を公表しました。世界版が「研究力」を中心に順位付けしているのに対して、日本版は、教員あたりの学生数や、学生へのアンケートなどから「教育力」を測ろうとして点が特徴です。

日本版は2017年から始まり今回が4回目になりますが、総合点では、東北大学（昨年3位）が初の1位となりました。

〔THE世界大学ランキング日本版2020 総合順位〕

順位（昨年）	大学	総合スコア	教育リソース	教育充実度	教育成果	国際性
1（3）	東北大学	83.0	84.1	80.6	96.6	73.9
2（1）	京都大学	81.5	83.4	78.7	98.4	69.1
3（2）	東京大学	81.2	86.5	79.8	94.1	64.0
3（7）	東京工業大学	81.2	80.1	80.8	92.8	74.5
5（4）	九州大学	79.7	76.4	79.9	97.4	70.9
6（5）	北海道大学	79.6	73.8	83.4	94.1	72.3
7（5）	名古屋大学	79.5	78.2	80.5	96.1	66.9
8（8）	大阪大学	78.9	78.0	77.2	97.9	68.1
9（9）	筑波大学	77.7	74.1	84.9	94.4	59.6
10（10）	国際教養大学	77.2	52.8	93.0	71.0	100.0
11（11）	国際基督教大学	74.3	52.8	90.5	60.6	97.6

12 (12)	広島大学	72.6	66.5	79.0	78.4	68.9
13 (13)	早稲田大学	71.5	52.7	79.3	93.0	74.6
14 (14)	慶応義塾大学	70.2	60.8	76.3	93.7	58.2
15 (16)	神戸大学	69.5	66.1	75.4	83.4	55.5
16 (15)	一橋大学	67.4	51.3	78.4	76.6	70.9
17 (21)	長岡技術科学大学	67.1	61.4	69.3	68.4	72.1
18 (18)	金沢大学	66.9	65.9	76.5	58.4	61.0
18 (22)	東京農工大学	66.9	69.8	68.5	69.4	57.4
20 (17)	上智大学	66.5	43.4	82.8	66.3	81.3

東北大学については、昨年の11月に、大学院工学研究科准教授 須藤 祐司 先生を講師としてお招きし、出張講義を行いました。須藤先生から、実物の形状記憶合金、先生が開発に携われた形状記憶合金を用いた「巻き爪矯正クリップ」等を紹介していただきながら、材料科学分野の実用化については幅広い汎用性があることを教えていただきました。なかなか興味深い内容でした。もし、機会があれば、このような行事を今年度も実施したいと思っています。

「1年生の教科登録」について

1年生の教科選択の説明が5月に行われますが、その後、仮登録をしなければいけません。この段階での大切な問題は、「文科系」、もしくは「理科系」に進むかを決定しなければならないことです。文理の選択についてはなかなか難しい問題ですが、「高校生新聞オンライン」に、NPO法人NEWVERY外部理事 倉田 史紀 氏による以下のような「消去法より「ワクワクできること」を大事に」の記事が掲載されていました。

大学の文系学部と理系学部、どちらを受験するのか——1年生の皆さんにとって、難問に思えるのも無理はありません。看護師や薬剤師など将来の目標がはっきり決まっている人、とくにそれが専門職である場合は簡単です。また、「将来のことは何も決めてないけど、物理が大好きだから理系に進む」といった選択も大いにけっこう。

しかし残念ながらほとんどの高校生が文理の選択を「不得意科目を避ける消去法」で決めているのが実状です。なかでもいちばん多いのが、「数学が苦手だから文系にしておこう」という選び方です。理系には「数Ⅲ」という手強い科目がつきものなのは確かですが、だからといって消去法での選択はあまりオススメできません。その理由は、今の時点での成績なんてあてにならないから。また、皆さんがこれから生きていく社会で、数学を避ける選択はあまり建設的ではないからです。これからの時代、たとえ文系の学部・学科を選んでも、その先でデータサイエンスやAIなどに関わる数学的な発想が必要になる可能性は非常に高くなります。「数学に自信がないから」といった消極的な理由で後々の選択肢を狭めてしまうのは少しもったいないのではないのでしょうか。

だからといってすべての人に理系コースを薦めたいわけではもちろんありません。私が考える文理選択のベストな方法は、「自分が何を学んでいるときにワクワクするかを考えてみる」というシンプルなものです。現在、大学では中退・留年者の増加が大きな問題になっています。全国の大学の平均値から、ある年の新入生のその後を100人の村に例えたデータを見てみると、中退12人、留年13人、卒業時に就職が決まっていない人30人です。こうした数字の理由で多いのは「本当はやりたいことではないのに入学してしまった」というミスマッチ。「大学での4年間どれだけ充実して学べるか」が、とても大切であることが分かります。

今どきの高校生は、将来の職業から逆算して学部学科を選ぶ傾向も強いようです。看護師や医師といった専門職を目指す場合はそれでよいのですが、「銀行に勤めたい」「環境問題の解決に携わりたい」といった、一見具体的に思える目標がある場合にも意外な盲点があります。皆さんは「銀行に勤めたいから経済学部」「環境問題の解決に携わりたいから理系学部」と考えがちですが、実際にはあらゆる分野について、文理はもちろん、さまざまな学部・学科の学びからアプローチできる仕事があるのです。今はそこまで分からなくても、シンプルに「自分が何にワクワクするか」を考えるだけで十分。その結果の文理選択が、大学での充実した学び、ひいてはその先の進路につながるはずです。

「高校生新聞オンライン」には、文化、スポーツ、学問などの第一線で活躍する高校生の取材記事、ニュース解説、主要大学の最新の動き、これからの時代の学びに必要な科学・国際・仕事の特集などが掲載されています。現実的な立場からのアドバイスは参考になると思います。 (<https://www.koukouseishinbun.jp/>)

終わりに

66回生の卒業生が、「進路指導部から」を見て、メールをくれました。「先生の文章に懐かしさを覚えつつ、生徒がいない静かな基町高校が容易に想像でき、少し寂しい気持ちになりました」と。現在、彼女は埼玉県で営業職に就いていますが、こうして思いだしてくれることに嬉しく思いました。(文責：進路指導部 池本 邦彦)